

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490200165		
法人名	株式会社 ライフステージ		
事業所名	グループホーム 織りがみ		
所在地	〒510-8032四日市市川北1丁目11-11		
自己評価作成日	平成 28 年 11 月 6 日	評価結果市町提出日	平成 29 年 3 月 15 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigvosyoCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	評価認証推進機構株式会社
所在地	三重県 四日市市 桜町3690番地4
訪問調査日	平成 28 年 11 月 24 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・家族が気軽に立ち寄ることのできるように、家族と気軽に出かけられるように時間の制限を作っていない。 ・和洋中エスニック等、バラエティに富んだ料理を、時にはグループホームの畑で採れた新鮮な野菜で作っている。 ・共同生活であり、皆が仲良くお互いを受け入れられるようにしている。 ・一人になって寂しい思いをしないように平等な関わりを心がけている。 ・共用型デイサービスに取り組んでいる。 ・入居者の方々に縁深い場所に外出するようにしている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>台所は対面型キッチンになっており、利用者が調理に加わったり、職員が調理中も利用者が目が行き届く配置となっている。この対面キッチンの前は広い共用空間になっており、昼間等、利用者が自由にいろいろな活動ができる広さがとられている。</p> <p>また、この共用空間に接続して15畳ほどの畳のエリアがあり、ベランダ窓は非常に大きく、冬場は温かい日差しがいっぱいに入り、道行く人や車を眺めたり、通行人に声掛けをして短い会話を楽しんだりできる。</p> <p>この様な建物の建築上で利用者が快適に日常をゆったり暮らせる工夫がある。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた場所で地域住民の一員になる。	職員は利用者一人一人の家族として接し、個別の担当者を決めることなく、それぞれの役割を担って、全員が1つの家族として接している。利用者をありのまま受け入れようと努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に行われる地域の催し物に参加していたが、入居者のADLの低下により参加が困難になってきており、地域の方に施設に来てもらっている。	認知症カフェを毎月開催し、地域包括からの声掛けもあり、地域住民に参加を呼び掛けて、地域住民の交流の場となれるように努めている。	認知症カフェのみに捉われず、住民としての役割をにったり、近くを散歩する園児の休憩場所、交流の場などとして提供し、さらに地域と密接な関係を築かれない。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社会福祉協議会の事業所見学の予定に入れて頂いた。民生委員さんにグループホームでの介護、取り組みをお知らせした。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会に加入し、地域の催し物に参加していたが、入居者の重度化に伴い外出の機会がへってきている。 施設内行事である地域の慰問等は継続していきたい。	家族や行政の参加は得られている。地域の関係者にはお願いしているも難しい面があるが、開催日程の都合を合わせるなど工夫している。 会議は近況報告を中心に行い、参加者から意見や情報を提供してもらえるように問いかけを心がけている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて適宜報告、相談している。また緊急、重要内容に関しては本社を通して連携を取っています。	主には、運営推進会議で実情を報告しながら、情報を提供してもらったり、相談にのってもらっている。 市窓口を通じて、高校生の実習の受け入れに積極的である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に該当する関わり方を研修を通して学んでいる。施錠、言葉での拘束を日々しないような対応の仕方を個々の入居者にすよう検討を繰り返しています。	玄関は大通りに面し、危険回避から施錠している時間がある。しかし、共用スペースの畳の部屋や裏口からは、戸外へ自由に行き来が出来る。 研修や、日頃の職員間での検討会により、利用者の想いに寄り添い言葉かけや対応の仕方を職員間で学んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待が行われないように注意をしている。地域包括支援センターや社会福祉協議会の研修に参加して知見を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症カフェへのお誘いをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の方と個別に話をする時間をとっている。家族とは来訪時、ケアプラン作成時、運営推進会議等で聞き取りを行っている。	利用者とは日常の会話の中で、家族には面会時やケアプラン作成時、運営会議等で十分時間を取り、意見を出してもらうように心がけている。家族の希望は、聞いた職員がメモを取り、責任者に報告して、出来る限り聞き入れるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング、面談等の時間をとり意見を聞くようにしている。	月二回のミーティングなどで意見や提案を言いやすい雰囲気作りに努めている。リーダーが職員に声掛けを頻繁に行い、意見を受け入れやすい体制作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が個別に時間を取り個々の職員と面談をして意欲を持って仕事ができるようにサポートしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社内、外の研修を取り入れている。会社内では人づくり研修や訪問研修、月間研修等。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	部会や研修等に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	困っていること、悩んでいることがあれば何度も話をする時間をとり、信頼関係を築くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	定期的な食事会、面会日、電話、認知症カフェ等で定期的に話を聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームが最適かも含めて考え、利用者の状態に応じて他のサービスを勧めるときもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事など出来ることは入居者、職員関係なく、している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者と家族は一緒に考えている。行事などあれば参加をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの方がいるデイサービスを使っている方も見える。	散歩や買い物を中心に、挨拶を交わしながら徐々に顔見知りの関係を築き、ここが利用者の居場所になるよう努めている。一番身近な家族の面会を歓迎し、過ごしやすい雰囲気作りに努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格に配慮し職員が間に入り輪を作るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	認知症カフェへのお誘いをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族、職員と話をする時間をとり必要と感じたら個別ケアを取り入れている。	入居説明時に十分に時間をかけ、本人、家族の希望を聞き入れている。 日常の暮らしの中での会話の中から、表情の変化などを察知し、希望や思いを汲み取ることが出来る様に、添いそう努力がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族からの聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	施設のスケジュールと個人の自由のバランスを保ち、その日の状態に応じてどうするか考えている。食事作り、関わった人を書けるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族への聞き取り、ミーティング、カンファレンスにて今後の取り組み等話しあっている。	利用者に対する職員の担当制は取らず、職員全員がそれぞれの立場から、利用者全員に関わるようにしている。本人、家族を中心に複数の職種の関係者で話し合い、個人記録等も参考にして、現状にあった介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個人記録に記入し計画時に確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体の拘縮が目立ってきた利用者さんに対して訪問マッサージを導入した。職員も指導を受け簡単に出来るマッサージを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の幼稚園との定期交流を行い子供たちもお年寄りの方とのふれあいが出来るようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の状態に応じて連携医以外も受診対応している。	本人や家族の希望をよく聞き、納得が得られた場合は事業所連携医に、職員が付き添って行っている。受診結果は家族へ詳細に報告している。その他の医療機関への受診は、家族に付き添いを依頼し、本人が安心した環境で適切に医療が受けられるように努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	今年度は該当なし。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院はもちろんのこと、入院治療となるか受診継続になるか分からないような場合でも職員が受診に同行しグループホームとして持っている情報を医療関係者に伝えるようにしている。同時に主治医の判断、指示等も聞けるため利用者のその後に役立っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族、連携医と話し合いを行い、本人の延命は望まないなどの意思を確認した。その上で本人が食べたい物を時間、回数などに関係なく提供し、また家族に何度も来て頂き、本人の希望を最大限に叶える様にした。	入居時に本人、家族の意向を聞き、方針の統一を図っている。入居後も都度、本人、家族の希望、意向を再確認して最重視している。二名の利用者を看取った経験もあり、本人、家族、医師との話し合いを密にし、本人の為に何をすべきか、何が最優先かを職員全員で考え、共有しながらの看取りに努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修を開催している。全ての職員ではないが個別にも研修に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	社内の各事業部の協力体制は構築済み。地域との連携は今後取り組んでいきたい。	事業所職員は避難方法、避難場所などを周知している。災害時は事業所職員に限定せず、事業者(会社)全体で、事業所近くに居住する職員が即時対応する体制が作られている。	運営推進会議や、回覧板などで、避難訓練の参加を呼びかけ地域住民とのさらに強固な協力体制を図る事を希求する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活チェックシート、既往歴等、把握している。 接遇マナー研修を行っている。	利用者の好きな、馴染みの呼び方で名前を呼んでいる。生活歴や性格を視野に入れ、人格を尊重しながらプライドを傷つけない話し方、声の大きさ、高さなど、接遇の研修会での内容を全員が共有しながら、実践できるよう、日々気を付けながら接している。	全職員が、日々笑顔で接し、笑顔で話し、笑顔で見守り、利用者が更に安心して暮らせる努力を希望する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別に時間をとっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日は出来ないが、希望に応じての外出を取り入れている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日、行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全員が参加出来て、楽しむことが出来るようにしている。地域フェア(沖縄フェア、ハワイフェア)やバイキングなどもして食を楽しんでもらうようにしている。	食事作りは、利用者のできる場所と一緒に手伝ってもらいながら、季節感を味わえる食材を心がけている。 利用者の希望でバイキング形式の食事を月二回実施し、利用者には喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	検査結果をふまえて必要な食材を摂ってもらうよう個別に対応している。無理にではなく楽しく、美味しいように工夫している。例えば野菜、果物等を使ったオリジナルドリンクをみんなでつくっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、昼、夕、口腔ケアを行い、入れ歯洗浄剤は職員が対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者の排泄のタイミングを表で確認しトイレ誘導している。	記録や関わりの中で、利用者一人ひとりの排泄パターンを職員全員が共有し、声掛けや誘導で自立への支援がされている。殆どどの利用者は、トイレで排泄ができています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜ジュースを作って飲んでもらったり、水分を多めに摂ってもらっている。 適度な運動取り入れている。 薬の副作用もあるので医師に適宜相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は決めているが、一日の入浴人数を少なくし、ゆっくり入ってもらえるようにしている。	入浴は午前中に行っている。個浴である。利用者からの曜日、時間帯の希望はなく、その日の、その利用者の、タイミングに合わせて職員が声掛けしながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事後の自由な時間は本人の希望で昼寝をしてもらったり、夜は状態に応じて早く休んでもらえるように対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のファイル、個人記録にて、その時の症状を把握している。居宅療養管理指導を利用して担当の薬剤師と協働をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一緒に家事をしたり、畑の世話をしたり、外出も利用者の意見を取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と一緒に外食、買い物等に出かけている。 本人の希望で体を動かすための散歩や日光浴をしている。	家族の面会が多く、その時に外食や、買い物に出かけていく機会が多いが、利用者の筋力低下で外出は近辺が多くなっている。最近戸外は寒く、敷地内の縁台が日当たり良好なので、「日向ぼっこ」で過ごすことも多い。職員同伴の買い物や外食は利用者の希望を聞き、定期的に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	していない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	活動的に過ごせる場所、静かに過ごせる場所の空間を作っている。テレビ、空調も別々に設置しており、入居者の方のその日の気分や体調に合わせてられるようにしている。	食堂兼居間は広々としていて、天井も高く開放感があり、いつでも配置の変更ができ、車いす等の利用も使い勝手が良い。15畳ほどの広い畳スペースがあり、座っての談笑や寝転んだりと寛ぎのスペースになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	机の配置を変えたり、和室やカウンターを利用し少人数で過ごせる場所を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人のなじみの物を持って来てもらったり、写真を飾ったりしている。	入居時に本人の好みの物、馴染みの物を持ち込んでもらっている。 居室は床やカーテン等の色を部屋ごとに統一して変化させ、利用者には自分の部屋を色で区別しやすくしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室ごとに色を分けたり、名札をつけることで個人の居室が分かるようにしている。 トイレも一人で行くことが出来るように見やすく書いてある。		